平成30年度　子ども委員会　特別支援学校外部専門員　見学研修参加者レポート

・実施期間：2018年11月～2019年1月の期間で各1日実施

・参加者6名　指導者5名

・実施場所：東京都立特別支援学校５校（知的小中学部2校　知的高等部2校　肢体小中高等部1校）

参加者研修後のレポート（レポートの項目に沿って掲載）（グラフは「学べた」にチェックがついた項目）

**【学校教育現場の理解】**

＜観察事項＞

参加者Aさん

登校からお昼までの対象の子どもの学校生活を観察した。半日の学校生活を観察し、子どもや教員の現状を知ることが出来た。

Bさん

学校によりそれぞれのカラーがある事を強く感じました。子どもの笑顔が多く元気な雰囲気が伝わる学校だと感じました。

Cさん

見学させていただいたクラスは、職能開発科ということであり、校内も含め落ち着いた雰囲気でした。

Dさん

すぐ隣に小中一貫校があり、関りがある。訪問時の週末に文化祭があり、それに向けて準備を進めている様子を直接見ることができた。（できる限り一人一人が取り組めることの試行錯誤）

Eさん

学校のパンフレットと実際の現場（一部改修工事中）を見せていただきながら学校全体の事について詳しく教えていただきました。

Fさん

給食後の片づけ、休み時間、下校指導の場面を見学。昨年の春に建物が新設されたばかりの学校は非常にきれいで、広大な印象を持ちました。広い廊下を子どもたちが教員のひく車に乗って、手を振りながら移動する微笑ましい場面がある一方で、教室から飛び出した子どもの安全を守るために、教員の日ごろの教育活動の大変さも感じられました。

**【外部支援専門家の目的と役割の理解】**

Aさん

上記内容を一連の流れで観察させて頂いた。紙面上の情報と教員のニーズを的確に捉え、子どもと教員の2つの支点で捉え、どちらにもより沿った適格な支援が求められることを理解できました。また、実際に指導者が支援学校の教員の心つかむ支援をされており、特別支援学校の教員との信頼関係も重要だと感じました。

Bさん

特に問題の見立てについて人間作業モデルに基づく思考方法を教えていただきました。自分の役割を限定的に考えてしまいがちだったので、反省も含め大変勉強になりました。

Cさん

・指導者は、教員からのオーダーを授業内の作業観察で適切に捉えていた。作業内容・作業特性を対象者の長所、短所、性格、他者との関わりなど今後の見通しまでその場に合わせた評価をされていた。

・テーマとして教員の授業力向上の改善。作業を通して教員が何を求めているのか、OTとしてどのようなアドバイスをするのかと教えていただいたのが印象的でした。

Dさん

当日の朝に配布される予定表から対象クラス（生徒）・授業・OTの要望を大まかに把握し、授業中の様子を見ながら、ポイントを見つけアドバイスをしていた。

Eさん

写真と名簿で学校全体を把握し、成長・発達も含めて情報を取られている。個人・背景因子についても、できる限り情報収集・評価されており、情報の蓄積方法を学びました

Fさん

指導者が学校から挙げられた対象児童ついて、場面観察、他の外部専門員（心理職）との情報の共有や場面の分析、教職員へのプレゼンテーション方法の打合わせを見学させて頂きました。専門員の職種や背景とする理論によって、同じ場面に対する視点の違いがあり、それをどの様にまとめ、実践可能な形で教職員に提案するかを考えていくことが必要であると感じました。

**【外部支援専門家と教職員とのコミュニケーション方法の理解】**

Aさん

今回は、紙面+フィードバックという形でした。相手に伝わる伝え方が重要だとわかりました。そのためにも的確な主訴と現状の把握が重要であると学びました。

Bさん

パソコンによる記載。フォーマットに主訴や医療情報・療育の経過が書かれていて大変参考になりました。

Cさん

ＯＴの目線だけでフィードバックし、オーダーに合わせた改善方法だけを伝えるだけではなく、普段の生活の様子を確認し、作業の解説などで先生が理解して振り返ることができるよう、また今後対象者に合わせた教育が提供できるようにコミュニケーションを取っていると教えていただきました。ケース会が終わった後の学校の教員の表情が印象的でした。

Dさん

記録は教員とデータを共有。プリントアウトされた用紙はファイルで保存

Eさん

授業や給食場面などにおいて、その都度、教員が相談を持ち掛け、OTは的確・簡潔に助言しながらやり取りが展開されていました。長年築き上げられた教員との信頼関係からできるやり取りだと思います。

Fさん

担任教員との観察場面の確認や対応の提案、外部専門家担当コーディネーターとの打ち合わせ、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを見学。また、他の子どもについて、担任教諭と授業時の映像を見ながら、問題とされる行動についての分析や対応についての話し合いの場面にも同席させて頂きました。

**【指導者からのフィードバック内容】**

Aさん

 ①ケースと先生の2つの軸で考えること  ②他職種を支援する立場なので、伝えることと伝えないことがある。相手のフィールドを理解し相手を尊重した関わりが必要だと教えて頂いた

Cさん

作業内容から対象者の問題点を挙げるようにという指導に対し、自分の行動観察と作業分析のスキル不足を感じました。作業内容に対しどのような行動を取っているのか、この作業にはどのような工程があり、どのような作業が必要かを理解しておく重要さを教わりました。

Dさん

教員が組み立てている大枠を崩すことなく、よりやりやすくなるアドバイスを意識している。同じ場所にいる教員でも教員以外の職種の方もいるのため、相手に伝わる言葉かけも大切である。（担任でないと記録を見ていない可能性もある）

Eさん

高等部における、評価や教員への助言の方法など、詳しく教えていただきました。外部専門員の先駆者としてご苦労なども伺いながら試行錯誤されて作り上げた評価表についても惜しみなく教えていただきました。

Fさん

外部専門員としての勤務態勢（勤務の頻度、人員構成など）、アセスメント方法、学校組織の理解について、使用する理論と場面の解釈に用いる方法などをご指導いただきました。

**質問１（学校現場の理解）**

「実際の学校教育はどのようにおこなわれていましたか。また、どのようなところが課題（支援の対象）となりえると感じましたか」

Aさん

 １対５人、１対１人など授業の目的に応じて教員が配置されており、担任が担当ではな いこともあった。そのため、子どもの状態の把握不足や教員の中で生徒に対する対応基準が作りづらいところが伺われた。

Bさん

子ども2～3人に1人の教員がつき、時にはほぼ一対一で指導が行われていました。日々の積み重ねが将来の自立につながるという点で、教員の指導に生かされるような、環境調整、子どもの行動の理由の観点や支援方法をお伝えできればと思いました。

Cさん

・作業内容を図にし、視覚からの情報入力で、分かりやすいように黒板に掲示していた。

・生徒10名に対し、教員は2名で対応していた。

・作業の方法、注意点を生徒に合わせた声掛けなど指導方法を取っていた。

Dさん

グループに分かれ少人数で実施。給食はグループ一緒になり学年毎に実施。教員が自分の食事をとりながら生徒の介助をする。どのクラスも非常に静かだった。子どもそれぞれの課題・アドバイスだけでなく、雰囲気作りも支援の対象として考えてもよいのかもしれないと思えた。

Eさん

課題に対して一人一人手厚く介助しての関りが中心のように観えました。

課題への取り組み方の分析によっては、もう少し介助を減らすことができることもあるかと思いました。

Fさん

子どもに対して教員が個別に担当されており、時間割もあり、給食など全体のスケジュールに沿える場面には沿いながらも、個々の状況に合わせた対応をされているとのことでした。子どもによっては、学校で求められる行動の理解や、課題に取り組む事自体が難しく、学校生活をより安全に適応的に送ること、課題に取り組み教育を受けることができることがまず基本的な支援の目標であると感じました。

**質問２（外部支援専門家の目的と役割の理解）**

「授業改善や個に応じた指導と支援の充実のため、外部支援専門家の目的と役割とはどのようなことであると感じましたか」

Aさん

 　客観的視点から現状を把握し、教員に対して、まずは学校内で簡単に改善できることを提案し、教員の悩みと子どもの困り感を解決する手助けをする役割があると感じました。

Bさん

子どもの困り感、教員の困り感に対して、その理由（身体・気持ち・認知・見え方・環境）をお伝えし、方策を提案する事

Cさん

就労などの将来を見据え、その人らしい生活を送ることができるように外部支援専門家の視点から教員が何を求めているかを理解、助言し教員との情報をすり合わせること。

Dさん

リアルタイムで困っている事に具体的な解決策を提案するだけでなく、様々な視点を教員に伝えて、日々の教育に役立ててもらう事

Eさん

生徒一人一人の能力をわかりやすく伝え、課題提供の方法や注意集中できる環境設定など。教員が試してみよと思える助言を多くできる事で、生徒の環境が改善し、パフォーマンスが上がる事が外部専門員の役割の一つと考えます。

Fさん

教員や子どもが困っている場面や行動が、どの様な要因で生じているのかを客観的に見て分析すること。また、それを教員に分かり易く伝え、学校組織やカリキュラムなどを踏まえた上で、実践可能な対応の方法を提案することであると感じました。

**質問３（外部支援専門家と教職員とのコミュニケーション方法の理解）**

「教師とどのようにコミュニケーションをはかる必要があると感じましたか」

Aさん

 指導者の様に、教員の立場を尊重し、質問をする内容も厳選し、授業を妨げない対応が喜ばれると感じました

Bさん

教員が悩まれている点をより深く掘り下げられるような、短くて、タイミングを見計らった質問ができるようになる必要性を感じます。

Cさん

・相手の立場・考え・取り組みを理解すること。

・外部支援専門員として支える意識を持つこと。

Dさん

教員のやりたいことを尊重したうえで一緒に解決策を考えていく姿勢をみせる。

そのうえで「△△より○○の方が無理がない」というようなアドバイスをする

Eさん

教員はとても多忙なので、その妨げにならないように配慮しながら必要と思われる情報を簡潔に伝え、明日から試すことができるような具体的な助言ができるような信頼関係をもったコミュニケーションが必要と思います。

Fさん

教員は物理的にも心理的にも児童と非常に近い存在であり、指導にも熱意をもって関わられていると感じました。しかし、それ故に子どもを障害特性から捉えたり、それをもとに客観的に評価する事の不足を感じました。ひとりひとりの子どもについて話しあいを通して、教員の子どもに対する教育観や達成したい事を外部専門員が教えて頂き、それも踏まえた上で専門員としての視点や解釈をお伝えする必要があるように感じました。

**質問４（外部支援専門家に期待されていること）**

「見学研修を通し、これから外部支援専門員として働く作業療法士に必要なこと、期待されていることはどのようなことであると感じましたか」

Aさん

 相手のフィールドを理解した上で、学校生活で改善できる提案が出来きること、心身 機能・環境・個人・社会性・医学視点など専門的なアドバイスを相手が分かりやすく伝え ることが求められると思いました。教員がどんなことに日々困っているのか、話を聞きながらニーズを引き出す能力や教員の頑張りを肯定するなどカウンセリング的な役割も果たしていたように今回の研修で感じ、期待されるところだと思いました

Bさん

教員の生徒さんに対する関わりの裏付け、理由付けを丁寧に伝える事。それにより、教員の専門性が向上する事。

Cさん

・作業活動を通して作業を分析し、疾患・その人の特性に合わせた提供方法を助言できること。

・社会の中で生きがいを持った生活の援助をしていくこと。

Dさん

運動学や感覚統合などOTの専門知識を押さえることは大前提。「学校」と組織の在り方や職員構成、一人一人の教員の役割を理解したうえで、支援に入らないとアドバイスが生かされない。

Eさん

生徒一人一人が活き活きと学校生活を送る事ができるために、生徒の行動理解の一つの手段として作業療法を活用していただけるよう理解してもらい、すぐに使える助言・指導をしていく事が期待されていると思います。

Fさん

　基本的な能力として、場面を観察し客観的に分析できること、障害の特性や用いることのできる理論の理解が必要であると感じました。また、一方で学校組織や文化を踏まえつつ、特性の理解や理論を日々の実践に少しでも活かすことができるよう、橋渡し的な役割ができることが必要ではないかと感じました。

**【研修の感想】**

Aさん

 今回、長い時間学校生活の見学をさせて頂き、学校生活というものと療育と教育の違いを知ることが出来ました。また、自分が介入する時と、アドバイスをするときの視点やフィードバックの内容が違うことが理解できました。指導者から、人に関わる時の姿勢というか求められていることを的確捉え伝えることが出来ると、対象者の心つかむことが出来るということを実感しました。また、人と人（ここでは、教員と子ども、教員と教員、教員と外部専門員自身、外部専門員と外部専門員）をつなげていく役割が作業療法士にもあることを知れ、指導者みたいな人間力を身に着けていけたらいいなと思いました。外部専門員して関わる機会がある時は、今回学んだ「観察する２つの視点」「主訴を的確にとらえ、また引き出すこと」「相手の立場に立った関わり」を忘れずに行いたいと思います。貴重な体験をさせて下さりありがとうございました。

Bさん

指導者のアプローチの一つ一つが学習の場になりました。まねさせていただきたいと思いました。理由付け、評価・分析も人間作業モデルを取り入れることで子どもの全体像が見えやすくなりました。ご指導ありがとうございます。

Cさん

私は作業療法士として何が提供できるのか。現場を知り、自分の知識の乏しさ・考えの甘さを覚えました。しかし、教育の場に多職種チームの一員として作業療法士が加わる重要さを肌で感じることもできました。今回の学ばせていただいた経験を力に変えていきたいと思います。

Dさん

肢体の支援学校に入るのは初めてで、知的とは違った面（看護師の多さ、自活など）を見ることができてよかった。非常勤という関わる時間が少ない中で、現場がOTに求めている事を的確に把握したり、支援することの難しさを感じました。大変勉強になりました。貴重な機会をいただきありがとうございました。

Eさん

ベテランの指導者の現場を見学させていただき、大変勉強になりました。指導者は教員とのコミュニケーションが円滑で、学校全体を把握し、生徒の事もよくわかっていらっしゃると思いました。私も今後もっと積極的に関わっていこうと思いました。評価表も参考にいただき、大変助かりました。今後に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

Fさん

今回研修に参加させて頂き、特別支援学校や外部支援専門員の支援の実際について知ることができました。また、指導者が教育現場との連携の形を模索しながら仕事を進められていることがわかり、今後学校現場に作業療法が周知され、活かされていくためには、このような積みかさねが必要であるのだと感じました。このような貴重な機会を頂き、ありがとうございました。